2009－12

Sakkyo Club

札響くらぶ

No. 49

発行／札響くらぶ（財）札幌交響楽団内
札幌市中央区中島公園1番地15号（札幌コンサートホール内）
HPアドレス　http://members3.jcom.home.ne.jp/sakkyoclub/index.html
Eメール　sakkyoclubmail@yahoo.co.jp

第３回　JOFC（日本プロオーケストラファンクラブ協議会）総会に参加して

～ 原点の地を訪れて ～

新幹線も止まる大きな駅から降り立った高崎は、あいにくの曇天。歩いて10分程度のお堀に囲まれた区画に、今回のホール「群馬音楽センター」はありました。外観表面はガラス張りの壁、裏手は斜めジグザグに部屋が並ぶ、古いながらも楽しさの感じられるもの。内部はNHKホールのような一般的な造りで、舞台天井の反響板が木で作られている暖かみがあり、座席数は1961席でした。

今日の演奏は、沼尻竜典（りゅうすけ）指揮による群馬交響楽団。曲はマクベス（R・シュトラウス）、三善晃のピアノ協奏曲、そして英雄（ベートーヴェン）でした。沼尻氏は、とあるTVの企画で、ばらまかれたコインの合計金額も当ててしまうスゴ耳の持ち主、群響は日本でN響に次ぐ老舗、映画「ここに泉あり」でも有名になったオケ。これは必聴とはるばる横浜から参った次第です。

１曲目のマクベスは、R・シュトラウスらしい優雅さと大胆さ、装飾に満ちたもの。マクベスの男気、野心の為自らを滅ぼす、愚かな人間の悲喜こもごもを見る様でした。

２曲目、真赤なパンツドレスに身を包み、小川典子氏が登場、三善晃の現代曲が勢い良く始まります。楽しささえ感じられる曲。中間部は一点、湿度のある東南アジアの仏像の景が、そして初めと同じかそれ以上に生命力溢れるコーダ。初聞きでしたが、この曲が有名との所以がわかったような気がしました。沼尻氏は現代物が大得意、師匠の曲でもあるから、迷いのない堂々たる演奏でした。

３曲目はお馴染みの英雄。あの有名なフレーズには聞く者を凛とさせるものがありますが、バロックのような部分もまた聞き処。今回この精緻なアンサンブルがまた非常に美しく、緩やかに流れる清流の水底に見える原石の宝石たちの様、どこか暖かみのある美しさが音の奥底から伝わってくるものでした。終わってしまうのがとても惜しまれる、ずっと聞いていたいと思うものでした。

このホールは歴史ある建物ですが、実は響きがなく、マクベスの様な大編成の曲には音の良さが伝わらず、本当に残念なところがありました。ただ、現代曲には遜色無く、また、英雄ではベトの時代の音はかくやと思われる暖かみのある美しい原音に、一音一音は楽器からではなく人が紡ぎ出すものなのだ、と改めて実感しました。また、このような環境では演奏する側も必死、聞く側も耳をよく澄ますような、演奏会コミュニケーションについても考えさせられました。

このホールを新しくするのは懸案の様子で、いろいろ活発に議論もなされているとのことでした。札幌には海外アーティストからもご指名が来る程の日本一（!?）のキタラがありますね。他都市でもホールの響きの良いのは当たり前な昨今、それらの有難みを感じると共に、このホールは大切な事を思い出させてくれる気も致しました。とは言え、ホールの響きは今や必須。群響の方々が、他のホールでリハーサルをするとき、あまりの音の良さに「なんだこれは！」と、そして、逆にこのホールに戻ってきた時、あまりの音の響かなさに「なんだこれは」と言われるとか。何とか良いものが出来ると良いなと切に思いました。

演奏会後は楽しい懇親会。群馬初め、仙台、山形、金沢、名古屋、広島と各ファンクラブが集い親交を深めました。会場には熱演の後のお疲れの筈の群響の方々や、沼尻氏、小川氏も来られ、華やかなものとなりました。ビュッフェスタイルのお料理を取る時、「どちらから？」「山響ファンです。」などの会話、全国に音楽を愛する同じ気持ちの人々がいるのだと、なんだか嬉しく、また誇らしく思えます。

翌日は総会でした。パーティやコンサートと違い緊張しましたが、群響の室内楽のサービスがあり、

「群馬音楽センター」前にある公衆電話

贅沢な朝の一時も…。その後は各地区の活動報告でした。面白セミナー、ミニコンサートや団員とのふれあいの会は勿論、山形のいも煮会など地域を生かしたものまで様々。どのチームにも共通していたのは、厳しい財政難と、その中でいかにオーケストラとファンの交流を深めていけるかをとても大切に思い、知恵を絞っている、ということでした。

最後に群響ファンズの挨拶でこの会は染められました。その中で群響の歴史も語られ…。群響は高崎市の空襲の2ヵ月後、衣食住も儘ならぬ中、人の心を豊かにし、成熟させるのは音楽との信念から出来たそうです。このホールは市内の全各家庭が補助金を補い、1961年に完成したとか（先の座席数はその年を記念しているそうです。）。

太古の昔から、嬉しい時だけでなく、悲しい時、苦しい時にも人に寄り添ってきた音楽。その音楽と人とを繋ぐオーケストラ。その気持ちを守り、繋げていこうとする人々の心意気。本当に今回の参加は、色々な原点、とても大切なことを沢山感じさせてくれるものでした。

お昼過ぎに解散となり、群馬の新しいホールも人々の心の集うものになれば良いなと、名物だるま弁当を食べつつ、高崎を後にしました。

（横浜の札響くらぶ会員）

第3回 JOFC 総会　報告

10月17日、18日に行われたJOFC第3回総会（高崎大会）の様子をお知らせします。

[参加ファンクラブ]

札響くらぶ
仙台フィルハーモニークラブ（SPC）
山響ファンクラブ
広響フレンズ
石川県立音楽堂「楽友会」
名フィルファンクラブ
群響ファンズ
（総会における発表順）

[群馬交響楽団　第458回定期演奏会]

2009年10月17日（土）18：45開演
群馬音楽センター（高崎市）
指揮　沼尻　竜典（次期首席指揮者兼芸術アドバイザー）
独奏　小川　典子（ピアノ）
コンサートマスター　伊藤　文乃
R・シュトラウス／交響詩『マクベス』
三善　晃／ピアノ協奏曲
ベートーヴェン／交響曲第3番『英雄』

開演前にステージで「プレ・コンサート・トーク」として音楽評論家の渡辺和彦氏による曲目解説がありました。この日の3曲についての楽しい解説と、調に係わる3曲の関連性についての興味あるお話を伺うことができました。

演奏が始まり、生で聴く機会のまずない『マクベス』（解説の渡辺氏も聞いたことがないとおっしゃっていました。）に始まり、きらびやかな音のぶつかり合いと緊張感あふれるピアノ協奏曲（小川さんの熱演で大いに盛り上がりました。）、対照的に重厚な『英雄』とバラエティに富む内容でした。沼尻さんの「どうだ、これが『英雄』なんだ。」といわんばかりの堂々たる指揮ぶりに、いつまでも拍手が鳴り止むことはありませんでした。

終演後はロビーで「群響ふれあいトーク」があり、この日出演されたコンサートマスターの伊藤文乃さんと長田新太郎さんに、この日の演奏に関するインタビューが行われました。また、JOFC総会が高崎で開催されることが紹介され、飛び入りで上田会長が挨拶をなされました。

[懇親会]

時間　21：30～23：00
会場　高崎ビューホテル

定期演奏会終演後、会場を高崎ビューホテルに移し懇親会が開催されました。この懇親会には、各ファンクラブの会員はもちろんですが、コンマスの伊藤さんはじめ多数の群響メンバー、さらにこの日、指揮をなさった沼尻さんとゲストピアニストの小川さんも参加され、盛大に開催されました。上田会長のご挨拶の後、沼尻さんの乾杯で懇親会が始まりました。

群馬交響楽団とは

1945年「群馬市民オーケストラ」として創設後、1947年にプロ化し、1963年に現在の名称に変更、地方オーケストラの草分け的存在がこの日演奏を聴いた群響です。1955年、群響をモデルとした映画『ここに泉あり』の公開により、一躍、全国的に注目を集めました。全高崎市民の寄付活動により建設された「群馬音楽センター」（1961年にできたので、札響と同い年の48歳です。）を拠点として、定期演奏会や音楽教室、文化庁の事業や東京での公演等、幅広い活動を展開しています。札響正指揮者の高関健さんが1993年以来、昨年3月まで音楽監督を務め、現在、名誉指揮者となっています。次期首席指揮者には、この日、指揮をなさった沼尻竜典さんが就任する予定になっています。

乾杯の沼尻さんと小川さん

ファンクラブの会員同士でおしゃべりに花が咲いた後、各ファンクラブの紹介が行われステージ上での挨拶となりました。最後は恒例になった全員での記念撮影ですが、撮影のカメラが何台にもなり、みんなで冷やかしながらの長時間の撮影となりました。

この後、閉会を名残惜しんだ面々（なんと30名以上）は、高崎の夜へと繰り出していきました。

［JOFC　第３回総会］

2009年10月18日（日）　10：00
会場　高崎ビューホテル

上田会長の挨拶で総会は始まりました。

「地方オーケストラの発祥の地・高崎で総会が開かれたことは、とても意義深いことです。日本の文化を支えているのは多くのファン、そしてそれを後押しする市民の活動だと考えます。多くのオーケストラが財政の苦しい中、私たちによる力強い支持、そして行政や企業に対する働きかけが大事なんだ、こんな時代だからこそ大事にしなくてはならないものがあるんだという認識を強く持たなくてはならないんだと考えます。年に一度の総会ですので、それぞれのグループがお互いに学びあい、実のある、そして楽しい総会であって欲しいと思います。そして、たくさんのお土産を、この群響の地より各地へ持ち帰ってもらいたいと望みます。」

続いては、群響ファンズの小野会長の挨拶です。歓迎の意を表した後、群響に対する熱い思いを語られました。その後フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの４名の群響メンバーによる歓迎のフルート四重奏の演奏会です。日を改めての総会だったため、この会のためにわざわざ足を運んでいただき、一同、予想もしていなかった出来事に感激がひとしおでした。

会則の一部変更や山響ファンクラブの役員の変更に伴っての幹事の変更などが了承された後、参加ファンクラブが順にこの１年の活動の報告と反省点などを発表し合いました。札響くらぶからは武藤事務局長がこの１年の活動内容を発表し、特に『楽員との交流会』と『札響くらぶコンサート』について、詳細に報告を行いました。『楽員との交流会』は昨年のクリスマス会が楽しくうまくいった様子（ビンゴゲームなどで盛り上がったこと）を、また、復活した『札響くらぶコンサート』は～札響と遊ぼう～をコンセプトに開催したが、運営的には成功といえない結果であった事、内容自体は指揮者の飯森さんの力もあり良いコンサートであったこと、次回に向けての反省点や今後も続けていくことなどを語りました。ホストの群響ファンズからは、群響の成り立ちやホールの建設のいきさつなど群響の歴史が語られ、その歴史の重みと、高崎市民の並々ならぬ群響への思いというものを感じ取ることが出来ました。会も大詰めとなり、前回、総会があった山形での『山形宣言』（注）が上田会長から読み上げられ確認されました。さらに、群響ファンズの小野会長より「極めて高崎的ではあるが」とのことわりがあった後、

武藤事務局長による報告

『群馬宣言』として「近年、地方オーケストラの活動が活発化しています。同時にそのことは、ファンを中心とした聴衆の応援によるところが大きいことが明白になってきています。今回の群響の演奏を聴くにあたって、ホールの歴史を感じると共に、多くの聴衆がこのホールに満足していない事実を認識しました。しかし、建設当時は全国でも先駆的政策と市民の協力によって実現したものです。全国各地で都市機能の充実策の一つとしてホール建築が進められていますが、私たちは、創立70周年を迎えようとしている群響の本拠地ホールの実現を目指す、群響ファンズの活動を応援します。また、どの地域においても、素晴らしい音楽文化を享受できる環境づくりを応援していきます。」と述べられ、拍手で承認されました。最後に、次期開催は名古屋でやりたいとの声が上がり、「来年は名古屋で会いましょう」との声で閉会となりました。

今回の総会では、山響・群響・名フィル等の若い方々が堂々と発言され、まさにJOFCの力になってきたことをとても嬉しく感じました。また、各オケとの連携に苦しんでいる姿を共有できたことも大きいと思います。ファンクラブのもつ多様性と可能性を感じさせる今回の群馬大会となりました。また、この総会がいつもあったかい会と感じられるのは、各ファンクラブのおらがまちのオケを大切に思う心と、お互いが学ぼうとする姿勢と、ホスト側の精一杯なおもてなしがあってこそと感じました。開催規模の大きさを誇るのではなく、参加者一人ひとりが何を感じ、何をしようと考え、いかに楽しく集えるかを基本におきたいと感じています。来年は名古屋で開催できそうです。名フィルを聴くのが今から楽しみです。

（注）会報45号を参考にしてください。

（西川吉武、松尾英樹）

群響メンバーによる四重奏

札響物語 48

北電ファミリーコンサート

北電ファミリーコンサートは12月5日の演奏会で第458回目を迎える。

札響に限らず、オーケストラにとって最も気合の入る演奏会は定期演奏会である。定期演奏会はオーケストラにとって研究発表の場になる演奏会でもあるし、聴衆は最も耳の肥えた定期会員だし演奏曲目も共演者も厳選、新しいレパートリーにも挑むため音楽監督も楽団員も緊張する大切な演奏会である。1961年9月6日の第1回定期以来年間11回行われてきたが近年は年10回行われ12月で第525回を数える。

一方、北電ファミリーコンサートは創立から12年たった1973年5月6日に札幌市民会館で第2代札響常任指揮者ペーター・シュヴァルツの指揮で始まった。第1回目を行って以来しばらくは毎年13回公演が行われ、その内11回は札幌市内、2回は道内各地での公演だった。札幌以外の市町村からの要請が強く徐々に札幌での公演回数を減らし道内各地の公演回数が増えた。現在は年11回公演の内7回は道内、4回が札幌の割合になっているようだ。

このコンサート、実は意外なことから生まれたコンサートである。創立当時のコンサートマスター、佐々木一樹氏が彼の知り合いで札響のファンでもあった北電の広報担当者とあるバーで一緒になった。既に札響のスポンサーでもあった北電の広報担当者も佐々木氏も「札響をもっと札幌市民に親しまれるようにしたい」との想いが強く盛り上がった。この担当者の提案が社内で検討された結果生まれたのが「北電ファミリーコンサート」です、と当の担当者から聞かされた。

ファミリーコンサートと言う名称からは一般的にポピュラーコンサートをイメージされる。第1回目はヨハン・シュトラウスのワルツ、ポルカ、行進曲などのプログラムだった。当時プロ・オケが演奏するポピュラーな曲目の典型的なプログラムである。担当者がクラシック音楽の熱烈な愛好家だったし、当時の常任指揮者ペーター・シュヴァルツがオーケストラの成長のためにしっかりしたシンフォニーを演奏出来る機会を増やしたいと言う希望が強かったため、曲目解説やトークは入るものの定期演奏会のようなプログラムになった。何回目かにゲスト出演した永六輔氏が舞台の上から「ファミリーコンサートと言うので楽しい面白いプログラムを期待して来たのに大真面目なコンサートなんですねー」と皮肉っぽく語ったほどだった。回を重ねると次第に共演する指揮者やソリストの間に札響第2定期と呼ばれるほどになり、音楽事務所からも「是非、北電ファミリーコンサートで出演させていただくようお考え下さい」とアーティストを紹介してくるようになった。（つづく）

（竹津　宜男）

平成21年度 札幌市芸術賞受賞

大平さん おめでとう

札幌交響楽団コンサートマスターの大平まゆみさんが今年度の札幌市・札幌芸術賞を受賞されました。札響での演奏活動はもちろんですが、ボランティアコンサートなど幅広い活動を評価されたものです。11月17日に贈呈式が行われ、今後の活躍がますます期待されるところです。大平さん、本当におめでとうございます。

大平さんのコメントを掲載します。

いつも皆様応援していただきありがとうございます。この度、思いがけず札幌芸術賞を受賞することができとても嬉しく思います。また同時に、その責任の重さを感じています。札幌に移り住んで11年がたちました。その間、本当に多くの皆様に出会い、支えていただきました。心より感謝申し上げます。

この受賞をスタート地点として、今まで以上に音楽を深め、一人でも多くの皆様に生の音楽をお届けできればと思っています。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

大平まゆみ

1・2・3月　札響定期のききどころ　～定期演奏会を満席に～

今後の札響定期のききどころを札響くらぶ会員に語っていただきました。1月はコリン・デイヴィスさんのご子息、ジョセフ・ウォルフさんが札響初登場です。この若き俊英が札響とどのような演奏を聞かせてくれるのか、期待大です。2月の工藤さんは高関さんと大学の同級生。でも、今回が初競演とのこと。お二人がどのように丁々発止とやりあうのか、今から楽しみですね。3月は尾高さんが三善晃さんの曲に挑みます。この曲は、指揮者も演奏者もとても難しく大変なんだそうですが、聴く方にとってはとても面白い曲のようです。皆さんもお友達を誘って定期演奏会に出かけましょう。私たちの手で定期演奏会をいつも満席にしましょう。

■第525回定期演奏会
1月29日(金)19：00～　30日(土)15：00～
指揮：ジョセフ・ウォルフ
独奏：ヴィヴィアン・ハーグナー(ヴァイオリン)
曲目：ベルリオーズ／序曲「海賊」
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲
シベリウス／交響曲第2番

シベリウスの交響曲を聴くようになったのは、札響の演奏会が何度も取り上げてくれたおかげです。特にこの2番は耳障りも良く、親しみやすいメロディーで大好きになりました。曲の出だしで、その音と同じ様に身体もザワザワ騒ぎ出し、一瞬のうちに曲とシンクロしてしまうようです。今回は「メンコン」とのカップリングなのでこんなお得な演奏会はめったに経験出来無いでしょう。

■第526回定期演奏会
2月26日(金)19：00～　27日(土)15：00～
指揮：高関　健（札響正指揮者）
独奏：工藤　重典（フルート）
曲目：モーツァルト／フルート協奏曲第1番
ショスタコーヴィチ／交響曲第8番

札幌出身の世界的なフルート奏者である工藤重典さんが、あの堂々とした体躯から繰り出す繊細にして華麗なモーツァルト、曲を紹介するだけでも何かワクワクしてくる。

21歳のモーツァルトが宮廷楽長の職を求めて母とともにドイツ・マンハイムに旅行中に作曲したこの曲は、オーボエ協奏曲をフルート用に書き直した第2番の協奏曲とともに、古今のフルート協奏曲の中でもひときわ傑出した名曲とされている。彼はフルートという楽器を父への手紙の中で「耐えがたい楽器」と書き綴り嘆いているが、出来上がった2曲ともが今でも傑作として愛されているというのは面白いし、さすが天才モーツァルトの面目躍如といったところである。軽やかな音色で始まる第一楽章は、鳥のさえずりのようなフルートの技巧の華やかさに気分が浮き立つようである。第2楽章は打って変わって優しく穏やかに心に響き美しい。そして第三楽章は再び口笛でも吹きたくなるような楽しい気分にさせて終わる。

■第527回定期演奏会
3月19日(金)19：00～　20日(土)15：00～
指揮：尾高　忠明（札響音楽監督）
曲目：三善　晃／交響三章
ラフマニノフ／交響曲第2番

三善さんの「交響三章」を調べてみました（今まで聴いたことがないもので）。留学地パリで学んだことをすべてこの曲に入れようとしたとか、日本人のロマン主義というものへの道のりを経験してみようとか、そんな思いで作曲したようですが、何といってもこの曲の聴きどころは、ライブで味わう高いテンションのようです。複雑な変拍子があり、とても演奏が難しい（指揮もとても難しいようですが）この曲に札響がどう挑むのか、どういう音がどこから伝わってくるか、音の遠近感や伝わってくる速度感など、これぞライブという感覚が味わえそうです。

※次号は、4・5・6月定期のききどころを取り上げます。皆さんの思いをお寄せ下さい。

運営スタッフ活動報告　9月～11月

◆第5回運営スタッフ会議
8月26日(水) 19：00～20：00
札幌コンサートホール1階第2会議室
出席：上田会長以下11名
・第8回札響くらぶコンサートを終えて
（反省、今後に向けて、収支報告）

◆会報48号発送作業
9月16日(水) 15：00～17：00
札幌コンサートホール1階第2会議室
出席：佐藤副会長以下5名

◆JOFCホームページの更新
9月20日(日)

◆JOFC第3回総会(高崎市)に出席
10月17日(土)、18日(日)
参加：上田会長以下13名
（うち首都圏から3名）

◆10周年記念誌発送作業
11月6日(金) 15：30～17：30
札幌コンサートホール1階第2会議室
出席：佐藤副会長以下5名

◆第6回運営スタッフ会議
11月6日(金) 18：00～19：30
札幌コンサートホール1階第2会議室
出席：鈴木副会長以下8名
・新スタッフ武内さんの紹介
・第8回札響くらぶコンサートの収支報告
・JOFC参加報告
・練習見学会について
・Xmasパーティについて
・記念誌の図書館への寄贈について

◆札響くらぶコンサート検討会(第1回)
11月27日(金)18：30～20：00
エルプラザ2Fフリースペース
出席：西川副会長以下4名
・第9回札響くらぶコンサートの開催について

◆第7回運営スタッフ会議
11月30日(月) 18：00～19：30
札幌コンサートホール1階第2会議室
出席：鈴木副会長以下9名
・Xmasパーティの実施について
・練習見学会について
・「札響くらぶコンサート」について

現在の会員数（11月30日現在）

今年度（4月以降）
入会13名、退会71名
現会員総数　470名
（10月に山響ファンクラブから加藤顧問、東海林副会長、保科事務局長の3名が新規入会され、以前からの会員の栄浪氏とで4名となりました。また、札響くらぶから上田会長、西川副会長、武藤事務局長の3名が山響ファンクラブに新規入会しました。）

Player's talk 1

チェロ
坪田（つぼた） 亮（りょう）

———ご出身は

生まれは広尾町で、小学校入学のときに室蘭に移りました。高校からは札幌です。

———音楽との出会いは

3歳のときに「ピアノが欲しい。」と言い出したようで、両親が無理をして買ってくれましたが、広尾では先生もいなかったので、習い始めたのは室蘭に移ってからです。でも、ピアノは性に合わなかったのか、遊びの方が楽しくて、小学校4年生の時にはやめてしまいました。中学校で吹奏楽部に入り、担当したのがユーフォニアムです。それが楽しくて、高校でも続けようと思っていたのですが、進学した札幌北高には吹奏楽部がなかったので、ヴァイオリンとヴィオラを弾く先輩が一人いることを聞きつけ、同級生を2人誘い4人で音楽部を始めます。同級生2人はヴァイオリンを弾いたので、私がチェロを弾くこととなり、それがチェロとの最初の出会いになりました。先輩に松脂のつけ方から何もかも習い、その年の学園祭で「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」をお披露目しました。

———プロを目指そうと思ったのは

理科系が好きで、大学受験の頃は建築家か、出来たら医者になりたいと思っていました。でも、北大に入学して最初に行ったのが北大オーケストラで、当時は一日中練習室が使えたのでよく練習していました。やがて専門的に音楽の勉強をしたくなり、北大を中退して芸大の別科を受験し入学、別科は技術だけを教えてくれる2年制ですが、さらに本科を受験しなおし再入学しました。北大にいる頃からプロになりたいと考えていましたので、在学中にオーディションを受け、芸大を卒業する前に新日本フィルに入団しました。

———札響入団の経緯を

新日本フィルには8年在籍しました。ちょうど小澤征爾さんが芸術監督で、他にも多くのすばらしい指揮者・ソリストの方々と共演できました。とにかく大曲が多く、公演の間隔も短いので、とても忙しいオーケストラでした。最初はずっと東京で活動しようと思っていましたが、20年近くが経って北海道に戻りたくなりました。そこで札響のオーディションを受けて入団となったのです。入団してまず感じたことは、じっくり曲に取り組めるという事です。札響は高校時代によく定期を聴きに行っていて、すごくいい音だなぁと感じていました。その印象は中で弾くようになっても変わりません。本当に戻れてよかったというのが今の正直な感想です。

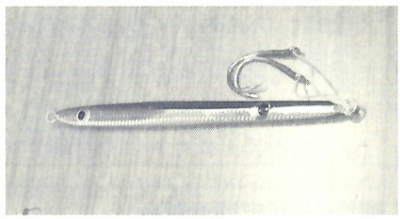
———チェロを選んだのは

もともと低い音が好きで、CDを聴くときも気がつくと旋律ではなく低い音を追っていたりします。中学時代のブラスバンドでも中低音の楽器を担当していました。チェロの音は全体から見ると埋もれやすいので注意して聴かないと分からないのですが、見ながら聴いていただくとよくわかる。演奏会ではチェロは正面に見えるので、まず演奏している姿を見ていただきたいですね。自分も「チェロだけ見て聴いてもらってもいい」という思いでいつも弾いています。弦楽四重奏が好きなので、クァルテットができたら最高ですね。

———ご趣味は

夏は釣りです。これを見てください。（持ってきたケースのルアーを見せてくれました。）今日持ってきたルアーはほんの一部で何個あるのかは数えたことがありません。一時は凝って自分で製作もしていました。バルサという薄い板を張り合わせて削って作るのです。夜釣りが好きで、礼文島での演奏会後にルアーを投げたら、40センチのソイが一投目に釣れてびっくりしたこともあります。昔は、夜釣りでルアーを使っているとみんながびっくりして、「何で釣っているの？」って寄ってきたものです。演奏旅行のときによく釣り道具も一緒に持っていっていましたが、最近はすぐに帰らなければならず、泣く泣く帰路につくことが多くなりました。この6月には家内と釣りだけのために沖縄へ行ってきました。お笑い芸人がマグロを釣っているテレビ番組を見て、行こうと決めました。船で2時間かけて釣り場までいき、このルアーでマグロを釣り上げたのですよ。冬はスキーです。自宅が藻岩山の南斜面が見える所にあり、場所としては絶好です。家は建てて6年目ですが、建築の写真誌に掲載されたこともあるのですよ。周りの景色も美しく、景色を見ながら最近の趣味のひとつになった好きなワインを楽しんでおります。

坪田さんのルアーコレクション



マグロを釣り上げたときのルアー

———ファンに一言お願いします

定期以外にもいろいろ演奏会がありますので、足を運んでいただき、弾いている姿を見ながら聴いていただきたいと思っています。違った見方も出来ると思いますし、新しい発見もあるでしょうから、これからもよろしくお願いします。

（深井雅昭、松尾英樹）

Player's talk 2

ホルン
岩佐（いわさ）　朋彦（ともひこ）

撮影：中村菜見子（札響Vn）

――ご出身は

宮崎県の都城（みやこのじょう）市です。

――音楽との出会いは

父が中学校の音楽の先生でしたので、いつも身近に音楽がありました。最初は小学校に入学した頃、父にピアノを習いました。ホルンを始めたのは、中学校で吹奏楽部に入ったときです。５歳上の姉がやはり吹奏楽部でテナーサックスを吹いていて、大会を見に行く機会もあり面白そうだと感じていました。小学生のとき、TVで放映されたベルリン・フィルの東京公演を録画し、繰り返し何度も見ていたことも大きく影響しました。

それほどやりたかった吹奏楽部だったのですが、残念なことに実は中１のときしかできませんでした。中２から個人レッスンを受けることになり、部活を辞めて月に１、２回東京へレッスンに通うようになったのです。レッスンでは、先生が要求することに追いつかないことがものすごく悔しくて、葛藤から毎回泣いていました。大変辛かったのですが、今振り返ると良い経験でした。

――高校、大学ではどんな生活でしたか？

高校は武蔵野音楽大学の附属高校に入学しました。ここでの生活は、苦しい思い出もたくさんありましたが、様々な楽器を専攻する友達と一緒に勉強することで、ホルンに対する考え方、練習方法などいろいろ刺激を受け、とても大事な時期だったなぁと思います。

大学は、武蔵野音楽大学に入学しました。高校と大学とでは大きな違いがありました。高校ではホルンは自分１人でしたが、大学では、僕の学年だけで12人も学生がいて…。

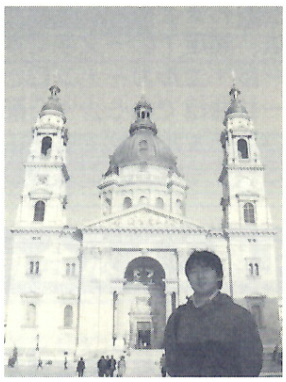
大学でのオーケストラで最初に演奏した曲は、チャイコフスキーの交響曲第２番「小ロシア」でした。ホルンのソロから始まる大変魅力的な曲でした。あまり日本では演奏されない曲ですが、僕にとっては思い出深い曲のひとつです。

――留学のお話を

大学を卒業してから１年間フリーで活動した後、ハンガリーのリスト音楽院に２年間留学して、アダム・フリードリッヒ先生に習いました。レッスンでは、まず「フォルテが足りない。」と言われて、曲にしてもエチュードにしても“こんなに吹いていいのかな”と思うくらいフォルテの練習をしたのが印象に残っています。

それから、大家さんがふるまってくれたハンガリー料理や世界遺産にも登録されているドナウ川の景色など、どれも素敵な思い出になっています。

留学地ハンガリーにて


大聖堂の前で

――札響に入団するまで

留学から帰ってきて、３年間フリーで活動しました。いろいろなオーケストラで様々な経験をさせていただきました。

札響は気候がハンガリーに似ていて、自然も豊かだし、ホールもすばらしく、また札響にエキストラで呼んでいただいたとき、とても良い雰囲気で、このような環境で仕事ができたらいいなぁと思いました。

――今後、やってみたいことは

いろいろな事に挑戦していきたいです。室内楽やソロ、教えることなど…。いつも何かを求める気持ちを持っていたいです。

――ご趣味をお聞かせください

釣りや料理などいろいろあるのですが、北海道はいろいろな温泉地のある素晴らしいところなので、時間をみつけてできるだけたくさんの温泉地をめぐってみたいです。

――ファンに一言お願いします

あたたかい応援をいつもありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いします。

（深井雅昭・松尾英樹）

素晴らしかった東京公演

埼玉にお住まいの札響くらぶ会員から、東京公演（ホクレン・クラシック・スペシャル2009）の感想をいただきました。日頃、東京公演に接することの無い私たちにとって、様子を知ることができ大変嬉しく思います。皆さんも公演の感想などありましたら、お便りをお寄せ下さい。

今日、初台のオペラシティで１年ぶりの札響と再会してきました。結果は、満足！の一文字です。

オール・エルガー・プロという、じみーな曲目で内心少々心配でした。コンチェルトまではその心配が当たりそうな気配がよぎりました。しかし最後のエニグマでは一気に開花！とりわけチャーミングな旋律がいっぱい、というわけでもないこの曲に実をいっぱいつめた皮袋のように充実した演奏でした。セカンドヴァイオリン前列のお二人が、特に気合が入っていた様に思い、印象深く感じました。

国内でこのようなプログラムビルディングに答えられるオーケストラは他にまずない、といっていいかもしれません。尾高－札響のコンビはすっかり板につき、ますます快調ですね。道産子として自慢できるもの、サッカーはいまいち、日ハムはかなりの線、でもやっぱり札響ですね。鼻高々です。

次回は在京の懇親会を是非やってください。

（相内　志朗）

札響くらぶ会員　特典

●平成21年度札幌交響楽団定期演奏会　10％割引（カッコ内は定価）

Ｓ席　4,500円（5,000円）
Ａ席　4,050円（4,500円）
Ｂ席　3,600円（4,000円）
Ｃ席　2,700円（3,000円）
※学生席の割引はありません。

●平成21年度札響名曲シリーズ
Ｓ席のみ10％割引（カッコ内は定価）

Ｓ席　3,600円（4,000円）
※Ａ席、学生席の割引はありません。

≪上記チケットを割引価格で購入できる店舗≫

・キタラチケットセンター
・大丸プレイガイド
・道新プレイガイド
・４プラプレイガイド
※各演奏会一般発売日より購入可能なので、会員証を提示して購入してください。

●テラスレストラン・キタラ

飲食10％割引。ただし、一部の商品を除きます。また、グラスワインのサービスがある場合もありますので、あわせて係員にお尋ねください。

●キクヤ楽器店（狸小路３丁目）

全商品10％割引。ただし、店内に限ります。キタラ等の出店では適用されません。

●ダイニング『イル・ネージュ』
（北区北12西１
北12条パークマンション１Ｆ）

札響くらぶと申し出てください。シェフからの素敵な特典があります。ご予約・お問合せは011－717－2555まで。

意見・感想をお寄せ下さい

会員の皆さんからの投稿をお待ちします。内容は問いませんが、以下の項目に関してのご意見を特にお待ちしています。

① 札響くらぶ主催でやってもらいたいイベント
② 会報に取り上げてもらいたい記事

特に投稿の期限はありませんが、１月31日までに投稿してくださった方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。なお、当選は商品の発送をもってかえさせていただきます。

プレゼント商品

① ４月の札響定期演奏会のＳ席チケット（３名様）（座席の指定はできません）
② 坪田亮さんのサイン入り色紙（２名様）
③ 岩佐朋彦さんのサイン入り色紙（２名様）

投稿は、ハガキ、封書またはＥ－メールでお送り下さい。なお、必須事項を必ずお書き下さい。

必須事項

住所・氏名・会員番号・希望のプレゼント商品の番号。なお、匿名希望の方は、「匿名希望」または「ペンネーム」をお書き下さい。（あて先は会報の題字の下にあります）

編集後記

JOFCの総会に参加してきました。他のファンクラブの発表に刺激を受け、札響くらぶも負けずに活発な活動をしなくてはと、気持ちを新たにしたところです。この交流の輪が全国に広がっていけばと願わずにはいられません。

この号がお手元に届く頃には、団員さんとの「X'masパーティ」も終えている事と思います。皆さんは参加なさいましたか。団員さんとの交流会や次年度の『札響くらぶコンサート』に多くの皆さんの参加を希望していますが、現在、企画や運営に携わるスタッフの不足が続いている状態です。今号より、スタッフの活動記録を報告することにしました。これ位なら自分にも出来そうだと感じた方はいらっしゃいませんか。是非、多数の方がスタッフに参加され、札響くらぶの活動がさらに盛り上がると素敵だと考えています。

今回は、横浜にお住まいの会員の方に総会に参加した感想をお願いしました。皆さんも日頃感じていることなど、お便りをお寄せいただければ、大変嬉しく思います。

（松尾　英樹）